

下野市立国分寺中学校

1 学校課題

「見通しをもち、主体的に学ぶ生徒の育成」
～各教科の特性を生かした「学びのある授業」の実践～

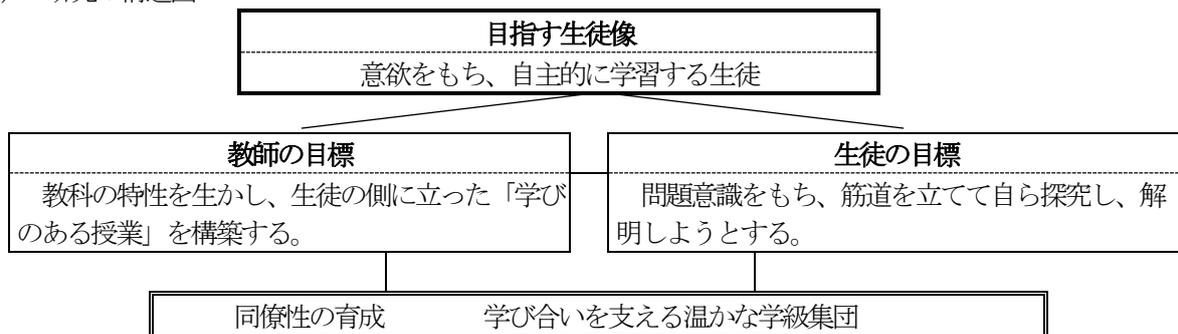
2 研究計画

(1) 研究主題設定の理由

平成30年度の「全国学力・学習状況調査」や「とちぎっ子学習状況調査」の質問紙調査では、「難しい問題にであると、よりやる気が出る」と答えた生徒が少ない結果となった。自分で学習内容を考えて取り組むことを難しいと感じている生徒が多いことから、計画性をもって学習に取り組ませることや、達成感を味わわせることが大切だと感じた。

このことから、学習指導要領の改訂のポイントである「主体的・対話的で深い学びの実現」の「主体的」という部分に焦点を当て、授業改善を目指していくことにした。そこで、各教科で生徒に見通しをもたせる課題の示し方をより一層工夫すること、教科の特性を生かし魅力ある課題を提示し、生徒が積極的に学び合うことで課題解決していける授業を考えることを共通の課題とし、生涯にわたって自主的に学び続けることができる生徒の育成をねらいとして研究主題を設定した。

(2) 研究の構造図



(3) 研究のねらい

- ① 生徒自身が課題をもち、見通しをもって解決できるような授業展開に取り組む。
- ② 授業公開、提案授業と授業研究会を実施し、生徒1人ひとりの学びを保障する教科の特性を生かした授業の展開について学び合う。
- ③ 生徒の学び合いを支える温かな学級集団づくりや教師と生徒との柔らかな関係づくりに取り組む。

3 研究内容

(1) 学びを中心とする授業の改善

4月当初の職員会議において、今年度の研究課題についての共通理解と学習観の共有を行った。今年度の課題の中では、昨年度に引き続き、生徒が「見通しをもち」ことに焦点を当てることとした。教科部会では見通しをもてるねらいの示し方の工夫、生徒自身が課題をもち、見通しをもって解決できる学習の流れの工夫を協議した。また、学び合いが活動のみにならないための課題提示の工夫も行っていった。

(2) 授業研究会の充実

昨年度の継続で、年間でグループを組み、1人1授業を公開し、その後授業研究会を行って振り返りを行った。今年度は、グループのうち1人が5月に授業研究を行うことで、今年度の授業改善のヒントや考え方を学び合うことができた。授業研究会を行うにあたって教科や学年での事前研究を行っての指導案作成をお願いした。授業研究会では、授業を参観する視点を、「生徒同士の話し合いで学びが深まった場面」「学びが進まない班に対する教師の支援」「生徒の変容」「教師が学びをつないだ場面、切って



しまっていた場面」に絞り、意見を出し合った。授業の中で、教師と生徒、生徒同士のどのようなかわり合いが学びに有効であったかなどを協議した。

また、S&U コラボ授業研究会では、田村岳充先生から本校の研究主題に沿って「見通しをもち、主体的に学ぶ過程がある授業」について講話をいただき、授業づくりのヒントを教えていただいた。さらに、12月に行った自主公開研究会では、「学びの共同体」の授業スタイルを中心になって推進している佐藤学先生にお越しいただいた。佐藤先生に指導をいただくのも今年で6回目となり、これまで生徒の学びや成長の見取り方、他校の実践などのお話を伺い、多くのことを得ることができた。他校の先生方にも参観していただいたことで、広い視野で本校の授業の様子を振り返ることができた。

授業研究会・公開授業（一部抜粋）

月	実施内容	教科
4	・学力向上における「1人1授業」 (4月～11月)	各教科担当
5	・1人1授業に関する第1回授業研究会	各教科担当
7	・S&Uコラボ授業研究会 講師 田村岳充 先生 (宇都宮大学教育学部助教)	3年英語
11	・S&Uコラボ授業研究会 講師 田村岳充 先生 (宇都宮大学教育学部助教)	3年国語
12	・自主公開研究会 講師 佐藤学先生 (学習院大学特任教授)	全学級授業公開 焦点授業：1年数学

(3) 温かな学級集団を支える教師と生徒とのよりよい関係

本校で取り入れている「学びの共同体」の理念は、学習の基盤の一つとして学びを支える温かな学級集団の存在がある。そのための方策として、昨年度に引き続き、以下の実践にも取り組んでいる。

ア 教師が生徒の気持ちを共感的に捉え、寄り添うことを軸とした指導に変えていくこと。

イ 授業においても、学校生活においても「聴く」ことを大切にすること。

ウ Q-Uテストや教育相談を実施することにより、生徒理解に努めること。

エ 学びの作法を身に付けさせること。



4 成果と課題

(1) 成果

研究を通して、教科の特性を生かしながら授業を行い、様々な角度から生徒の学びを支えるための取組を実践することができ、「生徒に見通しをもたせることを意識して授業を考えると、根拠を明らかにする課題や、筋道をたてて説明する課題を実態に応じて取り入れることができた」「授業の目的に合ったまとめができるようになった」「予想をさせてから実験をすることで科学的思考力を身に付けさせるのに役立った」「会話をする場面を多く設定することで積極的に英語を使おうとする姿勢が見られた」などの成果が挙げられた。また、教師同士がお互いの授業を見せ、意見を交わし合い改善案を出し合ったり、学習指導に関する研修を通し、学習指導に対する意欲向上を図ったりすることができた。

(2) 今後の課題

生徒の授業アンケート結果から、教師が授業のねらいを分かりやすく示し、学習内容を振り返ることができているという回答が多かった。しかし、生徒自らが課題を設定し見通しを立てて解決していくような場をもたせることが難しかった。そのため、何をもって生徒が主体的に学んでいると判断していくのが分かりにくいという反省が挙がった。生徒自ら課題を設定できる授業の工夫や生徒を評価する方法の工夫なども必要である。来年度は、教科部会を充実させ、年間指導計画を見直すことで教科の特性に基づいた評価規準、学習カードの工夫や授業内での評価の方法も検討していきたい。また、新学習指導要領実施を意識し、生徒に身に付けさせたい力を明確にしなが授業実践をしていきたい。